

5 平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	① 生徒一人ひとりが主体的に取り組む活動のある授業づくりを実践し、学習習慣の定着を図る。 ② 学校行事及び生徒会活動等を充実させ、主体的に取り組む姿勢を育てる。	生徒一人ひとりが主体的に取り組む活動のある授業づくりを実践し、学習習慣の定着を図る。	授業改善のための研究授業を実施し、それを踏まえた教科研修会、全体協議会を実施する。生徒に日々の授業を大切にすることを身につけるよう図る。	前年度以上のプリント、ノート提出率及び最高評価率を目指す。	授業改善のための研究授業を実施し、それを踏まえた教科研修会、全体協議会を実施することができた。プリント、ノート等、課題の提出状況は良好であった。	来年度、クリエイティブスクールになるので、生徒の興味・関心、能力に応じたカリキュラムの開発。	アクティブラーニングが全てと思わなくてもよいのでは、という指摘をいただいた。短大でも基礎科学の教員は知識の絶対量が多いので、アクティブラーニング形式の授業をやりたがらないとのことであった。	授業改善でアクティブラーニング形式の研究授業が複数実施された。それぞれ魅力的で全学で取り入れたいものであった。しかし、一年次の中学校の振り返りの授業ではプリントを使用していた書写形式のものも多い。生徒に興味・関心を持たせる工夫が必要である。	生徒同士で教えあいでできる授業を研究していきたい。 新一年生生徒の状況をアンケート、中学校訪問で情報収集しているので、できるだけ個に応じた対応をしたいが、人的配置が課題となる。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	① 教育相談体制を整え、生徒一人ひとりの「困り感」や教育的ニーズを把握し、教員間で情報を共有して支援にあたる。 ② 部活動の活性化を図り、規範意識や責任感、コミュニケーション能力を育成する。	教育相談体制を整え、生徒一人ひとりの「困り感」や教育的ニーズを把握し、教員間で情報を共有して支援にあたる。	各学年に教育相談係を設け、定期的に教育相談担当者・教育相談コーディネーター・養護教諭で会議を開き、情報の共有に努め、必要に応じて、SC、SSW・外部機関につなぐことで支援を図る。	いじめ防止対策委員会の開催や生活アンケートなどを実施するとともに、定期的な会議等による情報の共有の取組により、支援が必要な生徒を把握し一人ひとりに対応した指導により、問題解決につながったか。	学年等から上がった情報をもとに、担当者でケース会議等を開催し、SC、SSW等につないだ。また、6月と11月に学年教科担当者も参加する情報交換会を開催し支援が必要な生徒の情報を共有した。	来年度、クリエイティブスクールになるので、1学年の早い段階から、生徒の「困り感」や教育的ニーズを把握する必要性がある。	生徒一人ひとりの「困り感」に対応するための、人的配置が必要となる。	教育相談体制を整え、支援が必要な生徒の情報を共有するとともに、適切にケース会議を開催し、SC、SSW等につなげることができた。今後は、より早い段階での生徒の状況把握が課題となる。	入学当初より、アンケート等を実施することにより、より早い段階で生徒の情報を把握し、クリエイティブスクールになることでより手厚く配置されたSC、SSW等につなげるとともに、職員間の情報に共有につとめる。
3 進路指導・支援	学校全体で取り組むキャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。	学校全体で取り組むキャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。	進路説明会及び講演会を通して、分野別に個別支援ができるよう情報の共有化を図る。各方面（学年及び分掌・ハローワーク等）と連携し組織的なキャリア教育が展開できるよう連絡を密にする。	進路説明会及び講演会への前年度以上の参加率を目指す。特に最終学年の就職希望者については、全員内定を目標とする。	3年1学期説明会の参加率は特に良かった。その他は例年並みであった。就職希望者については全員内定を果たすべく活動継続中である。	参加率を高めるために開催時期等を含めて再検討をしたい。最終学年で進学・就職とも希望しない生徒についての支援を再検討したい。	引き続き一人ひとりが進路実現できるように丁寧に進路支援をしていただきたい。	3学年就職希望者については、全員に内定をいただくことができた。今後も進路説明会やガイダンスへの参加率を高め、自ら積極的に進路実現に向かえるような支援を目指したい。	面接指導、職業適性やマッチング等において、SSW・SCC等の協力を得ながら一人ひとりの進路実現を図りたい。特に専門的な支援を必要としている生徒については関係職員との情報共有に努める。
4 地域等との協働	家庭・地域と学校間の連携を強化し、信頼される学校づくりを推進する。	家庭・地域と学校間の連携を強化し、信頼される学校づくりを推進する。	校外の掲示板やHP等を通じ、生徒の活動や学校行事などの情報を地域や保護者へ情報発信を行い、信頼関係を築き、協力してもらえる学校行事への積極的な参加を促す。	最新の情報を知らせるために、掲示板やHP等の更新ができたか。保護者の積極的な関わりが見られたか。	校外の掲示板やHP等で学校説明会の日程や生徒の活動や学校行事などの情報発信を行った。保護者等の学校行事への積極的な協力・参加が得られた。	クリエイティブスクールとしての更なる情報発信が求められている。HP掲載内容のデータをわかりやすく見直し、内容の一層の充実をはかる。	生徒の活動や学校行事などの情報発信の頻度を増やしていただきたい。	地域や保護者へ情報発信を行い、学校行事等への積極的な協力と参加が得られた。本校への志望者増加に結びつける工夫が必要である。	中学校訪問や学校説明会を精力的に実施し、クリエイティブスクールとしての学校案内やHP掲載内容をわかりやすく見直し一層の充実をはかる。
5 学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止に対する自覚を促す取組みを組織的・継続的に行い、安全・安心な学校づくりに努める。	事故・不祥事の防止に対する自覚を促す取組みを組織的・継続的に行い、安全・安心な学校づくりに努める。	事故・不祥事防止会議を通しての取組みや、防災や交通安全等の取組み、成績処理等の点検作業、個人情報管理等を確実にし、事故防止や安全に対する意識の向上を図る。	事故・不祥事防止会議等の取組みにより、事故不祥事ゼロを実現できたか。生徒や職員の安全に対する意識の向上が見られたか。	事故・不祥事防止会議を1月に1度のペースで行った。分掌ごとに課題を取り上げ、全体の場で共通認識を持ち、職員の意識の向上に努めた。	取り上げるテーマが例年同じようなものになってしまいが、新鮮な気持ちで、改めて確認するために様々の角度からのアプローチが必要になってくる。	来年度においても気を緩めることなく、事故不祥事ゼロに努める必要がある。	事故・不祥事防止会議を開催することで、事故・不祥事に対する意識の向上に効果があった。今後もさらなる工夫を加えながら継続して、事故不祥事ゼロを続けていきたい。	事故・不祥事防止会議の内容の充実を図り、新たなテーマにも取り組むとともに、日常業務での意識の向上により一層努めていきたい。